

ニセコ町観光振興計画改訂ワーキンググループ
検討経過

1. ワーキンググループ 構成員

- ・片岡 直人
- ・加藤 淳
- ・木下 裕三
- ・関 規明

2. 検討経過

9月20日（木）18：30～20：00

出席：片岡、加藤、木下、関、事務局（山本、小椋）

○目標設定について

- ・山の客が市街地に下りてくるのが大事
→独自アンケート調査？
- ・観光客数のみならず、「観光客満足度」、「観光消費額」も大事

○ニセコブランドとは何か、ニセコが大切にしている価値は何か

- ・スキー場におけるコース外滑走
- ・ニセコのような林間コースは諸外国にない。
- ・退職者が家を建てているのが多い。リタイヤ後に住みよい町はニセコだけでは。
- ・若者の移住も多い。移住したくなる所。
- ・ライフスタイルが見せられる施策があると良い。
→「住みたくなる所」、「住んで良し」の発信
→「こういう理由で住んだ」「こういうことをして住んでいる」という話
- ・ペンションはペンションの呼称を止めて、「〇〇さん家」にして、宿泊ではなくて、「ホームステイ」という位置づけとしてはどうか
- ・アワガラスの客は皆、佐藤さんのブログを見て来ている。
→個人の魅力が大事？

10月1日（月）18：30～20：00

出席：木下、関、事務局（山本、小椋）

○ニセコブランドとは何か、ニセコが大切にしている価値は何か

- ・「移住」、「ロングステイ」という言葉は、他の言葉にならないか。何か違う言葉があると良い。
→「生涯リゾート」？

○人材育成・交流

- ・観光客が狩太神社祭に出られるようにしてはどうか（例：奴、子供奴）
- ・事業者は、地元の人にまず知ってもらうのが大事（例：地元割引）。
- ・地元の人々の口コミが観光客にとって一番影響力がある。
- ・山と街との交流が必要。交流の中で観光客への説明能力が育まれる。

10月10日(水) 18:00~21:00

出席:片岡、木下、関、事務局(山本、小椋)

○地域資源の活用

- ・雪崩に係る「ニセコルール」は、ゲート別に難易度を表示してはどうか。
(立ち木に衝突して死ぬ人もいるため)
- ・小さい子ども(未就学児)が遊べるスペースが少ない。
- ・観光客や地元の人が野外でバーベキューやジンギスカンを楽しめる場所を作ってはどうか。
→周りに住宅が無いこと、トイレや水場があることが条件。
→有島記念館周辺ではどうか。

10月17日(水) 18:30~20:00

出席:加藤、木下、関、事務局(山本、小椋)

○プロモーション活動の強化

- ・平成23年度夏期満足度調査結果により、「夫婦旅行」「子供連れ家族旅行」が重点を置くべき誘客対象と判明したことから、こうしたターゲットに特化したマップやパンフを作成してはどうか。
- ・窓口で公園のことをよく尋ねられるが、関心事は場所ではなく、「どういう遊具があって何が出来るか。」ということ。こうしたことが判るパンフがあると良い。
- ・国内、海外ともセールス活動は行政が先頭に立って行っても効果が見込めない。民間に任せた方が良い。
- ・民間が行うセールスコールを補助金で支援するという手法もある。
- ・本年度、教育旅行のFAMを実施したが、招へい対象者も忙しく2泊3日の行程では来てもらえなかったりもする。地元事業者からは、FAMだけではなく相手先に出かけるのも良いのではという意見もあった。
- ・地元の魅力が増すことにより、口コミで自然と人が集まるようになる。まず足をしっかりとさせることが大事。
- ・来ている人をターゲットにしたプロモーションも大事。
- ・食のPR手法として物産展に参加するのは良いこと。単年度で成果を出すのは困難なので、3年なりの時限を区切った上で、駄目なら撤退するという姿勢で臨むと良い。
- ・物産展出展について、「〇年行った後、どうなるのか。」という将来像が必要。

10月25日(木) 18:30~20:30

出席:木下、関、事務局(山本、小椋)

○広域観光の推進

- ・山全体のコース、ゲート規制、バス交通が一まとめになったマップが判ると良い。今でもパンフ類は統一されていない。
- ・山のゲートについては、ゲートの所に行かなければ開いているかどうか判らない。判るともっと良くなる。
- ・スキー場のコース外では、目印となる看板一つない。知っている人だけが円滑に滑ることができる。素人が行ったら戻れなくなる箇所があるほか、コブ斜面

に木が生えているような所もある。

- ・ 現在検討しているニセコ観光局については、山のことにしぼった観光局としてはどうか。ニセコ町、倶知安町の市街地同士の連携は難しいが山に限れば一元化できる。
- ・ 山の環境整備に向け、スキー客に対し、ゲレンデ環境や交通機関に関するアンケートを取ると良い。

○受入環境の整備

- ・ スキー場の安全管理について取組を進める必要がある。
- ・ 町長政策、総合計画の理念について計画に盛り込む必要がある。
- ・ スポーツツーリズムの振興についても計画に盛り込みたい。
- ・ 自転車、フットパス、ノルディックウォークの振興。
- ・ 自転車はシニア層の利用にもっと注目して良い。今のロードレースタイプの自転車はシニアは乗れない。

11月12日（木） 18：30～20：30

出席：加藤、木下、関、片岡、事務局（山本、小椋）

○計画期間

- ・ 総合計画の終期と同じとすると計画期間が15年となる。15年は長過ぎる。10年後は観光の問題点も変わっている。
- ・ 総合計画と終期を同じくするならば、平成30年度で一度区切って、その後、5年計画を立てるべき。

○目標とする姿

- ・ 「悠悠リゾート」はもっと判りやすい言葉に置き換えると良い。
（例：住みたくなる町、子どもや孫と楽しめるリゾート）

○目標

- ・ 目標の数は3つにまとめるのが良い。

○基本戦略

- ・ 「ライフスタイル情報の発信」は基本戦略の柱として整理する。
- ・ シニア世代に特化したものを柱として入れると良い。
- ・ 「健康」面からのアプローチ

11月27日（火） 18：30～20：30

出席：加藤、関、片岡、事務局（山本、小椋）

○これまでの検討経過を基に事務局で作成した改訂素案について

- ・ 計画策定時の町長だった佐藤前町長の紹介方法を確認する。
- ・ 基本戦略に新たに加える柱「高齢者層の取り込み」の名称は、「シニア層へのアプローチ」とする。
- ・ 長期滞在への言及を、基本戦略に新たに加える柱の中で行うこととし、基本戦略「地域資源の活用」中の項目「滞在を促進する観光メニューづくり」は、新たに加える柱の中に位置付ける。
- ・ 北海道日本ハムファイターズとの連携について言及する。
- ・ スポーツ観光の環境整備については、第5次総合計画との整合を図る。

- ・シニア層への取組については、医療面でのケアについて言及する。
- ・基本戦略「人材育成・交流」の中に、町民みんながおもてなしの意識を持つような取組について言及する。
- ・基本戦略「プロモーション活動の強化」中の「コンベンション誘致のための情報発信」では、冊子の作成だけでなく、M I C Eを取扱う旅行会社等への働きかけについても言及する。
- ・基本戦略「プロモーション活動の強化」の中で、雑誌社等の視察旅行受入についても言及する。
- ・道の駅ニセコビュープラザの再整備ほか、新たな道の駅整備について検討する旨記載する。
- ・「シニア層へのアプローチ」について、施策の記載順は、①医療、②高価格・高価値コンテンツの開発・提示、③子どもや孫にも役立つ旅行の提案、とする。
- ・SNSの活用については「インターネット」で括るのではなく、外出しで言及する。
- ・目標として新たに「満足度の向上」を位置付けたことから、全体を通して「満足度の向上」について言及する。